

臨床研修カリキュラム

養成コース [ 耳鼻咽喉科 ]

**全体目標:**耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患に適切なアプローチができるようになるために、主な耳鼻咽喉科疾患について生理検査・画像検査を含めて幅広く学び、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的な知識・技能を修得する。

**個別目標:**

	1、2カ月	3ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	頭頸部領域の解剖を説明できる。	
2	聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚、嚥下、発声の生理学的基礎を説明できる。	
3	以下の検査に関し、①適応の判断 ②手技の実施 ③結果の解釈 ができる。 聴覚検査、平衡機能検査、味覚検査、嗅覚検査、内視鏡検査、嚥下機能検査	
4	側頭骨、副鼻腔、頸部X線検査の系統的な読影ができ、異常を指摘し、解釈を述べることができる。	
5	頭頸部CTおよびMRIの系統的な読影ができ、異常を指摘し、解釈を述べることができる。	
6	頸部超音波検査および穿刺吸引細胞診の適応および実施方法、合併症を述べることができる。	頸部超音波検査を上級医の指導の下で、実施できる。
7	急性中耳炎、鼻アレルギーに関し、ガイドラインに沿った診断および治療ができる。	
8	鼻出血、咽頭異物の診断、治療について説明できる。	上級医の指導監督のもとで鼻咽腔および咽喉頭内視鏡検査が実施でき、鼻出血、咽頭異物に関して診断、治療ができる。
9	上気道狭窄の診断ができ、気管切開の適応および実施方法、合併症を述べることができる。	
10	喉頭微細手術、鼓膜換気チューブ留置術、口蓋扁桃摘出術の適応、実施方法を説明できる。	上級医の指導監督のもとで喉頭微細手術、鼓膜換気チューブ留置術、口蓋扁桃摘出術ができる。
11	頭頸部がんの病期分類および治療法に関して述べるができる。	
12	化学療法を、決まったプロトコールに従って、副作用などを理解し、実施できる。	抗がん剤の有害事象への初期対応ができる
13	緩和ケアに関して理解し、基本的な症状コントロールが実施できる。	
14	患者の尊厳に配慮し、死亡確認および遺族への対応が行える。	
15	上級医・指導医の指導監督のもとで病状説明ができる。	

**方略:**

・病棟で5-10人程度の患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・教授回診・入院症例カンファレンス…週1回(月)。受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。特に、入院直後の患者に関しては病変の進展範囲、staging、今後の検査および治療方針に関し詳細にプレゼンテーションを行う。
- ・頭頸部癌カンファレンス…週1回(月)。耳鼻咽喉科、放射線腫瘍科の合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・抄読会…週1回(水)。最新の文献を選択し、ローテーション期間中に1回発表する。
- ・手術症例カンファレンス…週1回(水)。受け持ち患者の中の、手術予定患者について、プレゼンテーションを行う。
- ・その他、日本耳鼻咽喉科学会茨城県地方部会(年に3回開催)や筑波大学臨床談話会(2カ月に1回地域病院と合同で実施)に積極的に参加する。

#### **評価:**

- ・EPOC IIによる評価を行う
- ・修了時に評価表(研修医の経験内容等に関する自己評価および耳鼻咽喉科医の指導体制等に関する評価を記載)を提出。評価表は耳鼻咽喉科のスタッフおよびシニア以上のレジデント、全てが共有する。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。